

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年10月10日

電子タバコと加熱式タバコ使用は紙巻きタバコ喫煙を増やす：新型コロナパンデミック中のイタリアにおける前向きコホート調査

【松崎雑感】

コロナとタバコに関する別な切り口の情報です。

コロナパンデミック中に、紙巻きタバコをやめようとして、電子タバコや加熱式タバコにスイッチしても、無駄だという調査成績がイタリアから発表されました。シガレットよりも加熱式タバコなどの方が害が少ない（という前提での）タバコ製品スイッチ戦略＝ハームリダクション戦略が、イタリアでは敗北しました。「ハームリダクション専門家」が奨励する戦略が「リアルワールド」では通じないことが改めて証明されたと考えます。

電子タバコと加熱式タバコ使用は紙巻きタバコ喫煙を増やす：新型コロナパンデミック中のイタリアにおける前向きコホート調査

Gallus S, Stival C, McKee M, et al. **Impact of electronic cigarette and heated tobacco product on conventional smoking: an Italian prospective cohort study conducted during the COVID-19 pandemic** [published online ahead of print, 2022 Oct 7]. *Tob Control.* 2022;tobaccocontrol-2022-057368. doi:10.1136/tc-2022-057368

目的

電子タバコと加熱式タバコが紙巻きタバコ使用中止（＝禁煙）を促進するかどうかは、論争の的となっている。多くの調査が利害関係の不申告あるいは隠ぺいによって信頼できる内容となっていないためでもある。われわれはイタリアでの追跡調査を行った。

方法

18～74才の3185名のイタリア人について、2020年4～5月（ベースライン）と11～12月（フォローアップ）の2回にわたりタバコ製品（シガレット、電子タバコ、加熱式タバコ）の使用状況に関する調査を行った。6か月間におけるタバコ製品使用状況、特に電子タバコと加熱式タバコ使用の変化を解析した。

結果

ベースラインで紙巻きタバコ使用歴がなかったが、電子タバコを使用していた人々は、フォローアップ時点では、両方とも使用していない人々よりも、紙巻きタバコ使用が8.8倍（95%信頼区間：5.65～13.65）に増加していた。（電子タバコ使用は紙巻きタバコ喫煙のゲートウェイだった：松崎）

ベースラインで紙巻きタバコ使用を中止していた人々（禁煙者）では、紙巻きタバコ喫煙の再発率が、電子タバコ使用があれば4.25倍（2.40～7.52）、加熱式タバコ使用があれば3.32倍（2.05～5.37）に増加していた。（禁煙して、電子タバコ・加熱式タバコにスイッチしても、再喫煙する：松崎）

ベースラインで紙巻きタバコ喫煙を継続していた者の85.4%はフォローアップ時にも喫煙を継続していた。

このフォローアップ期間中に電子タバコ使用者は1.10倍（1.02～1.19）、加熱式タバコ使用者は1.17倍（1.10～1.23）増加した。

結論

電子タバコあるいは加熱式タバコ使用は、紙巻きタバコ使用の開始あるいは再発を増やし、紙巻きタバコ禁煙を減らしていた。

今回の調査対象者数は少なかつたため、より大規模な調査により、今回の知見を確認する必要がある。

しかしながら、今回の調査成績から、電子タバコあるいは加熱式タバコ使用がタバコ製品使用を減らすための製品であるという主張は、少なくともイタリアでは支持されないと言える。